

指導教員名

羽藤雅彦

活動区分	地域活性化型	連携先	企業
			自治体・国

## ～ 瀬戸内カレッジ ～

### 活動の様子



### 取り組む課題

松山市が観光地として抱える課題の発見、解決案の提示。

課題① 2泊しない問題 [https://www.shimane-kintetsu.co.jp/group/tourist\\_01.html](https://www.shimane-kintetsu.co.jp/group/tourist_01.html)  
主な観光施設の入込客数ランキング

- 1 道後温泉 位 (約40万2,100人)
- 2 松山城ロープウェイ・リフト (約54万6,900人)
- 3 松山城天守 位 (約22万900人)
- 4 坂の上響ミュージアム 位 (約5万6,200人)
- 5 子規記念博物館 位 (約5万9,700人)



有名観光地がコンパクトに密集している！

### 企画・活動概要

JR西日本・自治体・大学が連携し、若者視点を活用した地域活性化、旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指す産官学のプロジェクトです。これまで北陸、南九州、新潟、瀬戸内エリア等で毎年実施してきました。一連の取組みを通して、参加学生と地元協力者の間で交流が生まれ、地域と連携強化の促進、大学生による若者目線での旅行プランや地元の課題解決に向けたアイデアの提案、および自主的な地元PRを展開してきました。2021年度も瀬戸内エリアを対象とし「瀬戸内カレッジ」を実施します。(瀬戸内カレッジHPより)



### 本学(学生)の役割

松山市の職員の方々や地元の観光スポットの方々とオンラインや対面での交流を通じて、松山市が観光地として抱える課題を学生の視点から検討し、解決案を提示する。



### 経緯・背景・目的

地元との交流促進・魅力発見を目指す。参加大学は、参画自治体のサポートにより、地元の方々との交流を深め、観光素材の新たな魅力発見、地元の課題の深掘りをすると共に、課題解決に向けたアイデアを考案する。



### 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

- ・論理的思考力  
自分たちが考えた課題を聞き手も重要だと認識できる容易に説明する論理的思考力
- ・アイデア力  
どういったアイデアであれば自分たちが考えた課題を解決できるのか、またより魅力的なアイデアにしていくにはどうすればいいかを最後まで考え抜く力
- ・プレゼン力  
より魅力的なプレゼンをするにはどうすればいいかを考え抜き、何度も練習を繰り返すことで身につけることができた



### 指導教員および関係者の紹介

#### <指導教員>



商学部  
マーケティング学科  
准教授  
羽藤雅彦 (ハトウマサヒコ)

<専門・担当科目等>  
研究演習II

#### <関係者・企業等>

西日本旅客鉄道株式会社  
愛媛県松山市